

82才から20才まで、緊張感の中で、「中国百科検定」試験に挑む

3月20日、大阪会場では、奈良、和歌山も含め1級から3級計35名が同じ教室で受験しました。欠席は1名。

開始20分前にはほぼ全員がそろい、シーンとした雰囲気の中で開始を待ちました。15時ぴったりに始まり各自真剣に問題に取り組みます。

受験クラスでは、2級が14名で一番多く、2級を2度目という方もいました。男女比では、女性は5名で14パーセント。年齢構成は、20代から30、40、50、60、70と80代まで最高齢は82歳、最年少20歳とともに男性。

アンケート用紙はほとんどの人が提出し、「試験会場がわかりやすい」「試験の緊張感がなんとも言えず良い。会場が予備校というのもなおよい。受験生気分です。」(82才最高齢1級受験生)、



「問題集丸暗記の学習でしたから、今回は迷いました」「隣国の中国を理解するは重要だと思った。検定を通して互いの共通点相違点がよくわかった」「うろ覚えでは迷います。歴史や文化の流れと関連付けて学ばないといけない」、「中国については、一般教養程度しか知らなかったが、検定で知識が深まった。」(20才最年少受験生)、「(いい企画なのに)受験生が少なすぎる入門コースも設けて若者の受験を促すべき」など、受験した方からの要望・提案の積極的な感想がありました。

